環境パートナーシップちば
# だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.１１７
編　集　環境パートナーシップちば
代　表　桑波田　和子
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課気付
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

## 平成 29 年度千葉県環境講座報告

## リーダー養成講座 はじめの一歩～この指とまれ～報告

平成29年度千葉県環境講座（掲題）を平成29年9月20日（水）東京港野鳥公園（東京都大田区）において、講師(特活)東京港グリーンボランティア代表八木雄二氏で実施しました。

はじめに東京港野鳥公園の成り立ち。40年前の学生の頃から見ている八木講師からの「世界に類のない公園」とのお話に驚かされました。この公園は、もともと海であって1960年代に埋め立て事業が開始され、埋め立て後には地面に雨水などがたまって自然に池などができ、いつの間にか野鳥が集まりバードウォッチングの有名スポットにもなり、1978年に大井第7埠頭公園ができ、1989年に都立の海浜公園（港湾局管轄の24.9ヘクタールの公園）となった経緯。東京都卸売市場に隣接し湾岸道路・首都高速道路に囲まれ、とても野鳥がいるとも思えない周辺環境の中、河川の中流から下流までの環境（里山、田んぼ、畑、林、水辺、干潟など）が再現されて、開園以来210種類以上の野鳥が観察されていることなどの説明から「世界に類のない公園」ということが理解できました。

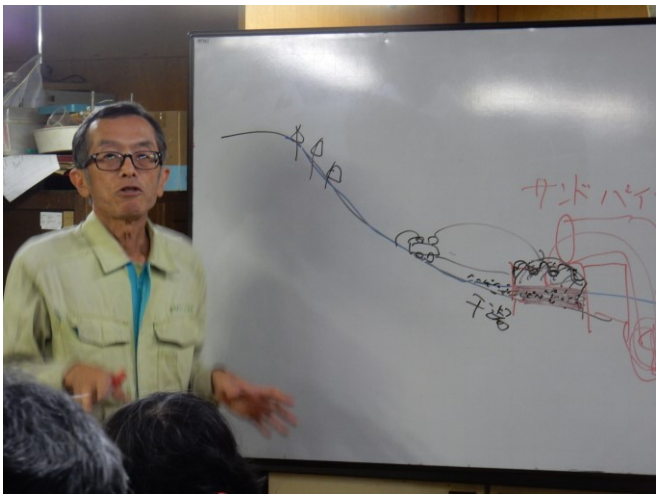
この公園の成り立ちに由来する課題（港湾局には公園の管理・運営のノウハウがない）に対応して「大井ボランティアグループ」ができ、東京港野鳥公園と共に歩む「東京港グリーンボランティア」となったそうです。今の都会ではなかなか目にすることのできない、様々な自然環境を来園者に知らせ、「自然というものの大切さ、素晴らしさを多くの人々に感じ取っていただくこと」のお手伝いのため、というお話に「センス・オブ・ワンダー」の場の再現を感じました。

午前中は、海岸側の来場者が入れない裏の管理地を歩いて草をかき分けながら案内してくださり、海岸でクリーンアップしている場面から、グリーンボランティアが公園の環境管理事業(草刈り・ゴミ拾い等)や、企業の社会貢献活動(CSR活動)の協働の役割を知りました。と同時に講師の草刈りの話から「人間は、草が生えると邪魔なので草刈りする。そうではない、公園では自然を育てるために草刈りしている。刈り方で草に多様性が生まれ、木も自然な樹形になっていく。大自然の中では、動物が食べるということで、木の剪（ｾﾝ）定をする必要はなく、自然の中で動物・植物は、お互いを生かし合っている、木を見て、自然に対する感謝が必要」などの話は、アンケートにもグリーンボランティアの精神がすばらしく、理解できたとの感想をいただきました。

午後は、生態園の中で田んぼや畑や観察舎などの見学の後、彼岸花の咲く草地の草刈りをボランティア体験としてさせていただき、鳥が隠れられるだけの草地を残して終了としました。講座最後の振り返りやアンケートなどにも、この講座を通じて行動する人になっていきたいとのご意見をいただいたのは、県講座としての意義があったことかと考えます。

このリーダー養成講座は次につながるように「よりよい活動をするために～ひろげよう・つなげよう～リーダー養成スキルアップ講座」として、11月12日（日）千葉市美浜区の打瀬ふれあい緑地にて「現場体験から環境学習プログラムの組み立て方を学びます」を開催いたします。今回の「はじめの一歩」の受講生にも「行動する人」を目指してぜひ一歩前に出ていただけることを望んでいます。皆様のお申し込みをお待ちしています。

（文責　横山　清美）



## 平成 29 年度千葉県環境講座報告
# 「親子で施設見学～汚れを落とす仕組み～」

夏休みに入ってまもない、7 月 28 日（金）、市原市のライオン株式会社において、講座を開催しました。

私たちに身近な「汚れを落とす仕組み」のタイトルに興味を持たれたのか？定員 40 人のところ 70 人近く申込みがありました。当日は親子 45 人とスタッフ併せて 49 人で、見学してきました。

ライオン株式会社の工場敷地はとても広く、まず、コミュニティーハウスで、①工場の概要をお聞きし、②歯の汚れを落とすための「歯の磨き方」を専門の講師から丁寧な説明がありました。歯周病にならないための歯磨きの仕方等、親子で歯磨きしながらの微笑ましい体験でした。③いよいよ汚れを落とす実験です。洗剤が衣類など汚れを落とす仕組みについてお聞きしました。

ポイントの、汚れを落とす成分「界面活性剤」について詳しく分かりやすく説明を受けた後、２グループに分かれ、水だけと洗剤液が入った２種類の試験管で、汚れの落ち具合を実験しました。

洗剤の中の界面活性剤の働きが試験管の中で見られ、さらに講師の解説が上手で、親子ともども汚れが落ちていく世界に引き込まれ、熱心に楽しく体験されていました。

実験の後は、洗剤ができ、箱詰めされ運送される前までの工程を見学しました。「ベルトコンベアーでチェックされ、流れるように製品が運ばれていくさまを実際に見られたのも良い体験だった」と親の方から聞きました。

また工場敷地内には、企業の生物多様性の取り組みの一つのビオトープも見学しました。池や湿地など水辺を作り、水草や稲を植えたりすると海辺近くでもトンボなど生き物が来るようになったとのことでした。参加された方がこの講座を思い出しながらお洗濯して欲しいと企画側として思いました。　（文責　桑波田 和子）

## 平成 29 年度千葉県環境講座報告
# 「親子で体験～川・里山で生き物探し～」

８月４日（金）いすみ市にある「千葉県いすみ環境と文化のさとセンター」へバスツアー体験学習に行ってきました。

夏休みということで、県内各地から応募があり、抽選で選ばれた親子 42 名の参加者とスタッフが加わり満席のバスでいすみ市に向かいました。

講座は、① 小川でガサガサ生き物探し ②藁ない体験の２コースのため、2 班に分かれ交互に講座体験を行いました。

①生き物探しは、施設内を流れる水路の浅瀬に入り、水草の茂みを足でガサガサと踏み込んで生き物を追い出し、待ち受けの網ですくいあげます。捕獲した生き物は、各人が持ち寄り全員で観察した後職員の方から解説、「小さな用水でこれほどたくさんの生き物が生息できるのは、周りの環境が良く、生態系がしっかり保たれているからです」と説明がありました。最後に捕獲した生き物を惜しみながらすべて元の場所に放してあげました。ちなみに捕獲した生き物は、メダカ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、ゲンゴロウ、トンボのヤゴ、ザリガニ、タニシ、ホタルの幼虫、そのほかたくさん。

② 藁ない体験は、施設のネイチャーセンター内で職員の指導があり、最初に藁作品の「しめ縄」や「むしろ」そして「俵」などを見ながら、「かつてはどこの農家でもこれらを手作りして便利に活用していた」と説明がありました。藁に初めて接する子供たちがほとんどで、藁を手のひらで擦りながら“なう”という動作にすぐ慣れた子供と、なかなか思い通りに進まない子供、それぞれ楽しそうでした。

また、足ふみ機械での縄ない体験は、藁を一本ずつ機械に投入しながら足踏み操作のためタイミングが合わず苦労の連続でした。

今回の講座体験を通して、生き物が育つための環境作りと農業を介した循環型生活が生態系の環境づくりには重要な意味を持っているということを参加者に理解していただけたと期待しています。

（文責　萩原 耕作）

## 平成 29 年度千葉県環境講座報告
# 「気象キャスターと地球温暖化を体験」

８月 23 日（水）南行徳市民センターにおいて、千葉テレビ「シャキット！」でご活躍中のお天気キャスター池田未来さんを講師としてお招きし、親子参加の体験活動［気象キャスターと体験する「地球温暖化」］を開催しました。

「2100 年　未来の天気予報」からスタートし、今は西暦２100 年であるという設定で気象情報を解説していただきました。激しい気象の変化に関する映像が次々と映し出され、なかでも夏の気温が日本全国各地で 40℃を超えるという予報が伝えられたときには、あちこちから驚きの声が上がりました。また、子供たち全員が、キャスターとして未来の天気予報を解説するという体験もしました。

さらに、二酸化炭素の熱吸収を確かめる実験や、うちわを使った風力発電の実験をしました。どちらも子供たちが楽しみながら実験に参加している姿が見られました。

後半は、2020 年から 2100 年までの未来年表を作りました。将来予想される世の中のトピックと温暖化のトピックが記載された年表に、その時々の年齢と人生のターニングポイント（成人、結婚など）を記すことで、温暖化の進行状況に自分の人生を照らし合わせることができ、より実感を持って危機を感じることができたようです。

最後は、雲の様子が写っている衛星写真を発泡スチロールの球に貼り付けて、小さな地球儀を作りました。苦戦しながらも親子で楽しく作業している姿がほほ笑ましかったです。

本講座は講義だけでなく、子供たちが実験に参加したことで、地球温暖化についてより理解を深めることができたのではないかと思います。また、親子で一緒に温暖化を身近な問題として考える、とても良い機会となったようです。

それにしても、子供たちの温暖化に関する予備知識の豊富さには驚きました。地球の未来のために、私たち大人も負けずに努力しなければならないと感じました。　　（文責　荒川 薫）

## 平成 29 年度千葉県環境講座報告
# 施設見学“南極の体験を活かした住まいづくり”

過酷な南極の生活・建物に欠かせない環境対策から培った温暖化へ適応する住まいづくりの大切さを学び・体験するため、９月 12 日（火）午後、東京都杉並区高井戸にあるミサワホーム（株）MISAWA PARK TOKYO にお伺いし講座を開催しました。

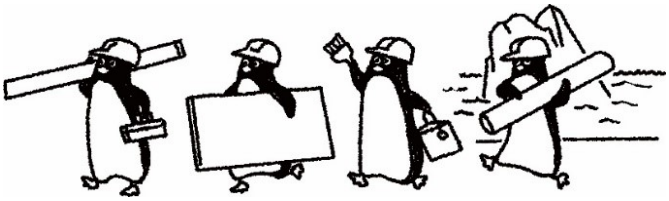
（株）ミサワホーム総合研究所川上主幹研究員から“環境対応の住まいづくり”について講義をお聞きし、第 51 次日本南極地域観測隊員秋元氏から越冬隊員としての体験談と南極での高断熱な構造体と高性能サッシによる建物づくりをお聞きした後、起震機で東海地震想定波による対策前後の地震体験や、映像・企画展示見学による住まいづくりのポイントについて説明をお聞きしました。

日本の南極観測は今年 60 周年を迎えますが、同社は 50 年前から極地の居住棟や様々な建物づくりに関与され、培った技術は日本の住宅づくりに活かされてます。講義では、地球温暖化に対し家庭部門では 2030 年には対 2013 年 $CO_2$ 発生を 40%減らすために、緩和策と、適応策が必要であり、“断熱＋省エネ＋創エネ”技術をうまく使ったＺＥＨ（ゼロエネルギーハウス）住宅は 2020 年には新築では当たり前となり、ＺＥＨのさまざまな考え方や技術についてお聞きしました。

ＺＥＨの基本は、快適さを我慢して生活するのではなく“年間で排出する $CO_2$ をゼロにする”ことであり、“断熱と気密”を基本に四季それぞれに応じてコントロールすること、買い取り制度による利益効果が期待できなくなる2019年問題を考えると“売電ではなく、蓄電池と太陽熱の上手な活用”を基本に”自然に負担をかけない住まいづくり”が重要なことをお聞きしました。

参加者の中には、実際に住まいの新築を計画されておられる方もおられ、非常に参考になりましたとの感想をいただきました。

（文責　川島 謙治）



# 『いちはら環境フェスタ』に出展参加！

環境パートナーシップが毎年参加している『いちはら環境フェスタ』に今年も参加しました（平成 29 年９月 23 日 市原市主催 於 出光会館）。出展内容は、ペットボトルキャップを使ったこま作りです。材料はキャップと、お菓子や贈答品などのパッケージに使われる厚紙を直径５センチの円に切ったもの、つまようじ。厚紙にカラーペンで好きに絵を描き、こまに仕立てて回してみる、といった素朴な内容です。

まず、「丸い紙にお絵かきをする」というところでハードルは下がり、2、3 歳の小さなお子さんにも参加しやすくなっています。具体的な絵を描いても、模様を描いても、ぐるぐるっと殴り書きでも、こまとして回してみるとそれぞれ思いがけない見え方を楽しめます。絵が出来上がるとこまに仕立てるのですが、こまがきれいにくるくる回るにはコツが必要で、軸となるつまようじが、こまの本体に対してしっかりと垂直にささっているように注意します。事前にペットボトルキャップの中心に小さな穴をあけておくのですが、穴がすべてのキャップのど真ん中にあるとは限らないのもご愛嬌。そのずれをカバーすべく微妙なバランスを探るのも、このこまづくりの楽しみの１つです。

今回の私たちのブースは、他にペットボトルを使ったおしゃれなケースと腕輪作り、ペットボトルキャップを使った笛、エコキャンドル作り、という工作コーナーで、来場者はいろんな工作を楽しんでいかれたようでした。また私たち出展者としても、他のブースのノウハウや工夫をじっくりと学ぶこともできました。スタッフは順番に他のブース訪問をすることもでき、それぞれに収穫があったようでした。

（文責 中村明子）

# またしても起きた “九州北部豪雨”

防災士養成研修講師　矢野 良明

このところ気象災害が頻発、各地で多大な被害が発生し、心を痛めています。犠牲者のご冥福と、被災者の一日も早い生活再建をお祈り申し上げます。

豪雨に伴う急激な河川増水により、破堤や浸水などの被害が繰り返され、今年７月にも「九州北部豪雨」が発生しました。この地方には５年前にも豪雨があり、悔やまれることに同じの名称が付けられていました。積乱雲が幾つも幾つも並ぶ線状降水帯は容赦のない大量の雨を、これでもかこれでもかと降らせ、一気に水嵩(かサ)が増し川幅を広げ流れ下るさまは、普段の流れからは想像を絶するものだと思います。自然の側からすると、川幅や流れのルートは人間が勝手に決め、堤防を造り、橋を架けているのであり、“時にはこのような流れにもなるのだ、邪魔立てするな”と言っているのかもしれません。

気象災害には毎回特徴があり、今回の九州北部豪雨では、風化した火山岩や火山灰などでできた山肌は崩れやすく、そこで育っている杉も地面に深く根を張っていないことから、大量の雨により斜面の表層が滑り落ちる“表層崩壊”を起こし、大量の流木が発生したと報じられています。この流木が橋脚に引っ掛かり、濁流をせき止め、増えた水嵩で橋を一気に押し流し、また流れを変えてしまったようです。

森林の荒廃を防ぐためには、適度な間伐など人の手を入れることが必要となりますが、伐採した木は経済的な価値をほとんど見い出せないことから、山下に搬出されることなく山中に積まれたまま（林地残材）となることも多いようです。今回の流木には、このようなものが一部含まれていたようです。

山林を放置してはいけない、人が適度に手を加え、適切な環境を保ってやることが重要ですが、諸経費を含めた持続可能な仕組み作りが、何とかできないものかと考えさせられる被害でもありました。

出典：国土地理院 HP（福岡県朝倉市、左：赤谷川）

# イベントが目白押しの 10 月です。
# みなさん、お出かけ下さい。

## ◆ 第 18 回東京湾シンポジウム

ー沿岸域の持つサービスと沿岸環境ー

日時：10 月 20 日（金）13：00～17：30
（受付開始 12：00）
場所：横浜港大さん橋国際客船ターミナル　大さん橋ホール
主催：国土交通省 国土技術政策総合研究所
参加費：無料　事前登録制（定員 350 名）

- 東京湾沿岸の土木・産業遺産
- ウォーターフロントの住宅を選択した住民の居住環境意識
- 神社に着目した海からの精神的恩恵の定量評価に関する検討
- 東京湾における二酸化炭素吸収
- UMI プロジェクト報告
- 「森里海つなぐプロジェクト」報告
- 温暖化に伴い藻場・サンゴ礁の生物多様性はどう変わっていくのか。

ほか

詳細は下記 Web サイトをご覧ください.
http://www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kenkyu/tokyobay-sympo.html

## ◆ 東京湾大感謝祭 2017

ー海にいいこと、やさしいこと、はじめよう！ー

日時：10 月 21 日（土）～22 日（日）
10：00～17：00
（22 日は 16：30 まで）
会場：横浜赤レンガ倉庫および周辺海上
主催：実行委員会
共催：国交省関東地整 環境省 東京湾再生官民連携フォーラム （一財）みなと総合研究財団 東京湾を良くする会 横浜港ボート天国推進連絡協議会

東京湾大感謝祭は、皆様のエコ・ＣＳＲ活動や、環境配慮製品・サービス、マリンレジャー、自然の恵みに満ちた飲料・食料、市民活動支援などの紹介、体験の場として開催いたします。官民が東京湾再生のために協働する唯一のお祭りです。
詳細は東京湾大感謝祭公式 HP
http://tbsaisei.com/fes/
をご覧ください。

## ◆ 第７回Ｅボート千葉大会

日時：10 月 21 日（土）9：30（開会式）
～14：30（閉会式）（荒天中止）
会場：フェスティバルウォーク蘇我 特設会場
主催：実行委員会
共催：フェスティバルウォーク蘇我テナント会
参加申し込み受付期間：8 月 1 日～10 月 2 日
参加費：1 チーム 5,000 円 個人 800 円/1 人

今年もカヌーを始め千葉県の特産物など豪華賞品をそろえてマス！今年からお一人やご家族でのご参加枠を作りました。Ｅボート初めて～の方も楽しめる大会をめざしてます。詳しくは、eboatchiba.com お申し込みお待ちしています。
公式 HP： http://eboatchiba.com/

## ◆ 第 21 回手賀沼流域フォーラム 講演会

日時：10 月 22 日（日）13：30～16：30
会場：我孫子市生涯学習センター「アビスタ」1Ｆホール
定員：150 名
主催：実行委員会
参加費：無料（当日先着順）

講演「身近から考える生物多様性」 東京大学大学院農学生命科学研究科 宮下直教授
事例報告「里山を生かしたまちづくり～自然と生きものが共生する環境をめざして～」NPO 法人 しろい環境塾

詳細は手賀沼流域フォーラム HP
http://www.teganumaforum.com/events.htm

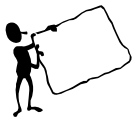
## ◆ 第 15 回印旛沼流域環境・体験フェア

ー水と食と発見のある印旛沼ー

日時：10 月 28 日（土）11：00～15：00
29 日（日）10：00～14：00
会場：佐倉ふるさと広場 向かい側
主催：千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議
入場無料
無料シャトルバス（京成佐倉駅⇔会場）の運行

市民団体活動紹介、特産品の販売、Ｅボート体験（28 日のみ）、ステージライブ、工作体験、など、いろいろなことが楽しめます。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　40　―
おききしました！　この人・この団体



# 認定 NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

代表理事　牧野昌子

## チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる
## ～市民が主体の地域づくりを支援します～

**NPO クラブの紹介**

組織の概要

2000 年 10 月設立、
2001 年２月 NPO 法人認証、
2017 年２月認定 NPO 法人認証
運営会員：27 名、賛同会員 113 名、
役員：13 名、スタッフ 11 名、
ボランティアスタッフ７名
事業高：4,000 万円程度（2017 年度予算）

事業内容

1.相談事業・ＮＰＯの支援事業
法人設立、会計、マネジメント相談、ＮＰＯ応援講座企画・運営、講師派遣

2.地域づくりのためのコーディネート事業
・地縁組織、企業、行政との連携・協働のコーディネーター、アドバイザーの派遣
・四街道市みんなで地域づくりセンター運営事業
・とみさと市民活動サポートセンターまちづくりコーディネーター育成事業
・東日本大震災の被災者、避難者支援事業
・浪江町復興支援員サポート事業
・多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業（千葉市花見川区検見川町）

3.広報事業
情報発信と情報交換の「場」づくり
公益ポータルサイト「ちば NPO 情報館」、地域づくり情報サイト「CHIBAKARA」運営、ＨＰ、ブログ、twitter、facebook ページ、ニュースレターの発行

4.他組織、行政との連携・協力事業
SAVEJAPAN プロジェクト、
ちば NPO 協議会事務局、
景観まちづくり千葉協議会事務局
委員就任等：公益財団法人ちばの WA 地域づくり基金、千葉県、千葉市、松戸市、浦安市、習志野、大網白里市、白井市、佐倉市、印西市、国交省関東地方小委員会

**中間支援組織の役割、課題について**

団体支援からコミュニティ支援に

設立当初は、個別の団体運営に関わるニーズが多くあり、マネジメント（設立、会計、広報）支援等に重点的に取組んできました。並行して８年前からは市民活動団体を含め地域づくりに関わる団体（社協、自治会、事業者）とともに、地域を面的に捉えた課題解決型のプログラムを企画、運営しています。社会状況の変化（高齢化、生活困窮者の増加、子どもへの虐待増加、若者の非正規雇用の増加）、社会福祉制度の改正（介護保険、障がい者総合支援法）など、地域のあり様や課題は10 年前とは大きく違い、私たち NPO は、ニーズに応えるべき役割を期待されています。また、地域のニーズは掘り起こしや調査をしなければ表面化しない場合が多くあります。そのために、ＮＰＯクラブでは四街道市、富里市で地域づくりの拠点の運営や支援をして現場感を高めています。また、地元千葉市検見川町に開設した「多世代交流拠点おおなみこなみ」は３年経過、さまざまなプログラムは高齢者、ママさん、子どもたちで賑わい、ボランティアスタッフが運営を担っています。

**多様なネットワークの構築**

各団体が社会の変化、地域の変容に対応し地域課題の解決をすすめるためには、専門分野ごとのネットワークを活用し専門性をみがき、そして地域においては他分野、他機関とのネットワークを深め、専門性を発揮することが求められています。中間支援組織の役割の一つは、ネットワークを紡ぎ合う「場」を企画提供し、地域の課題を可視化したうえで、それをいかに多くの市民、当事者と共有できるか、解決活動に参加する人を広げられるかにあるといえます。ひとつの団体や組織では解決までに至らない、深まらないことも中間支援組織のコーディネートにより連携・協働が進みやすくなります。NPO クラブでは、ちば NPO 協議会や景観まちづくり千葉協議会の事務局を担い、

県内で多様なネットワークを構築しています。

**新しい価値を創り出す**

これからの 10 年に向けて、地域課題の深刻化、複雑化が明らかになり、地域での暮らしにますます不安が増大しています。今後は地域の連携・協働をなくしては課題解決が難しく、ここに中間支援組織の適切なコーディネートが必要になります。半歩先、1 歩先の社会課題を示しながら各団体と共有し、今ある活動を進化させ、今はない機能、しくみを創り出し、地域に新しい価値を提供していきたいと考えています。

# 環境パートナーシップちば
# 特定非営利活動法人格の取得検討経過について

NPO 法人化検討委員会　川島謙治

環境パートナーシップちばは、平成 9 年 6 月 29 日、「今、環境問題は地球規模として懸念されている。千葉県において、環境問題に意識を持ち、それぞれの地域で活動してきた私たちは、今こそ、市民指導型の環境ネットワークを築き、市民・行政・企業とのパートナーシップを目指す」と宣言し任意団体として発足しました。

以来、千葉県内の個人及び環境団体をゆるやかにつなぐことを目的として、「環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民と、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動」として、①千葉県・県内自治体の環境学習実施参画、エコメッセちば実行委員会事務局や、「印旛沼をきれいにする活動」他の主体的活動、②県内環境関連シンポジュームやフェアに参画、③会員の交流及び会報「だより」発行などの活動を行ってきました。

発足 20 年、環境活動団体等市民活動団体は社会状況の変化に伴う多様化するニーズに活動方法の対応が求められ、市民力の向上・成熟したパートナーシップの構築が課題になってきました。これらの課題解決のため、環境を軸足として、より実効性あるパートナーシップ展開、環境学習等事業の充実、より責任ある活動を行う団体をめざし、平成２８年度総会で特定非営利活動法人(NPO 法人)への移行するため「NPO 法人化検討委員会」の設置を、平成２９年度総会で平成２９年度中に法人設立臨時総会開催を承認いただきました。現在法人設立に向け、定款、事業計画など検討を進めております。

**NPO 法人設立には以下の手順を踏む必要があります**

NPO 法人設立臨時総会の招集
- ➡ NPO 法人設立臨時総会での採決・総会議事録他申請書類の作成
- ➡ 申請
- ➡ 行政手続き（縦覧、認証・不認証決定）
- ➡ 登記
- ➡ 法人成立

現在、平成 30 年 1 月 13 日（土）設立臨時総会開催を予定しております。

会員の皆さまには、改めてご案内いたしますので、出席予定をお願いします。なお、臨時総会に合わせて記念講演も予定しています。

# 運営委員会報告

## ８月運営委員会

日時　８月９日（水）18:00～20:55
場所　船橋市民活動センター

【報告】
- 千葉県環境講座実施 7/24 7/28 8/4
- だより１１６号印刷発送 8/3
- 千葉県地球温暖化防止活動推進センター会議 7/25
- 千葉市環境審議会 8/3

【協議】
- だより１１７号　・「美浜マルシェ」
- エコメッセ出展者説明会 8/21
- Ｅボート千葉大会 10/21（今年は不参加）
- 千葉県「環境学習応援団」募集検討
- 法人格検討 進捗状況
  設立総会を 1/13or14
- 環境パートナーシップちば 20 周年記念事業 10/9
- その他

## ９月運営委員会

日時　９月１３日（水）18:00～20:45
場所　船橋市民活動センター

【報告】
- 千葉県環境講座実施 8/23 9/12
- 県環境講座チラシ発送 8/31
- シーズ・市民活動を支える制度を作る会へ入会
- 市原環境フェスタ実行委員会 8/28
- 千葉市緑丘公民館講座打ち合わせ 9/8, 11
- ２０周年記念講演会 1/13
- ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦 9/12

【協議】
- だより１１７号　・いちはら環境フェスタ 9/23
- エコメッセ出展内容 10/9
- 環パ 20 周年記念講演会 10/9
- 千葉県環境講座　9/20　10/9　10/12
- 法人検討委員会より
- 船橋市夏ボラの紹介

## お知らせ

環境パートナーシップちば
20 周年記念事業 講演会

**講演：「子ども達の持続可能な社会に向けて、親世代ができること」**
**講師：高木幹夫氏（日能研代表）**
日時：平成 29 年 10 月 9 日（祝・月）
14 時～15 時 30 分
会場：幕張メッセ国際会議場 201 会議室
（エコメッセ 2017in ちば開催会場内）
参加費：無料
定員：100 人
主催：環境パートナーシップちば
申込：TEL：090-8116-4633
e-mail：info@kanpachiba.com

**第 13 回御成街道ゴミ仮駅伝**
日時：平成 29 年 10 月 14 日(土)
区間：船橋東照宮～実籾本郷公園（8km）

**第 14 回御成街道ゴミ狩り駅伝**
日時：平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)
区間：京成実籾駅～JR 四街道駅（8km）
参加費：1,000 円（保険料・運営費他）
主催：御成街道ゴミ狩り駅伝実行委員会
申込み：電話：090-1253-6202
e-mail：info@another-project.com

**「環境パートナーシップちば」**は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：（一財）千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043－246-6969
Ｅメール：info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏 名 | | 入会年月日 | |
| 住 所 | 〒 | | |
| Ｅメール | | | |
| ＴＥＬ | | ＦＡＸ | |
| 年会費 | 個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円 | | |